

第27回滋賀県首長会議テーマ一覧

提案 団体	整理番号、テーマ名およびテーマの趣旨（概要）
①「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の開催準備について	
滋 賀 県	<p>「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」を開催するにあたり、以下の取組を推進することにより、簡素・効率化を図りつつも「滋賀らしい大会」の実現を目指したい。</p> <p>①県民総ぐるみのおもてなしの実現 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びわ湖マラソンなどで培ったボランティアの活用 ・学校観戦の取組 <p>②レガシーの創出 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のシンボルスポーツの創出 ・共生社会の実現 <p>③CO₂ネットゼロの取組の推進 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般観覧者の移動は公共交通機関の利用を前提とする ・ごみ分別の徹底によるリサイクルの推進 <p>については、その方向性や手法について、ご議論をいただきたい。</p>
②不登校対策について	
滋 賀 県	<p>不登校児童生徒数は増加傾向にあり、その対策として、各校ではスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部専門家を加え、校内の教育相談体制を構築し、未然防止、早期発見、社会的自立の取組を推進しているところである。</p> <p>とりわけ、不登校児童生徒の社会的自立のため、学びの保障は重要であり、学校に登校できるが教室に入れない児童生徒のために別室指導、学校に登校できない児童生徒に対して教育支援センター、民間団体・民間施設等の外部機関とも連携して支援に取り組んでいるところである。また、ICTを活用した学習支援も近年行われるようになってきた。</p> <p>一方で、家から出られず、専門的な相談・支援等を受けていない児童生徒も一定数おり、安否の確認も含めた福祉部局との連携や保護者支援も重要である。</p> <p>また、高校生の不登校生徒に対しては、スクールカウンセラー等の専門的な相談を受けている者の割合は低く、外部の支援先も少ない。</p> <p>このような中、令和4年度は、学識経験者、心理、福祉、医療、民間施設の代表者と教育行政(県教委生徒指導・いじめ対策支援室、生涯学習課、大津市教委、心の教育相談センター、精神保健福祉センター)でこれまでの不登校対策の検証と今後の方向性について5回議論を行い、①「未然防止のための取組の充実」、②「不登校児童生徒の社会的自立の取組の推進」、③「相談・指導を受けていない者への効果的な介入」の重要性を確認したところである。</p> <p>令和5年度の新たな取り組みとしては、①「市町教育委員会との議論の場の設定」、②「校種別の不登校対応教員連絡協議会の開催」、③「教員向け不登校リーフレットを活用した各種研修会の実施」を予定しているところであり、不登校児童生徒に係る関係機関の連携や、学校内外における多様な不登校児童生徒の支援対策について、市町の皆様と意見交換したい。</p>